

表1 入津湾赤潮プランクトン検鏡結果

令和7年8月7日

単位:細胞数/ml

採集地点	調査時間	水深 (m)	水温 (°C)	塩分 (PSU)	溶存酸素 (mg/l)	シャットネラ sp.	カレニア ミキモトイ	ヘテロシグマ アカシオ	コクロディニウム ホリクリコイデス	ケラチウム属
1. 西野浦(浪井義三氏筏前)	10:16	0	28.6	33.5	8.3	0	0	0	0	
		5	26.5	33.7	6.9	0	0	0	0	300
2. 河内	9:55	0	28.8	33.3	6.9	0	0	0	0	
		9	25.5	33.8	5.5	0	0	0	0	
3. 楠本	9:45	0	28.6	32.7	7.5	0	0	0	0	
		5	26.0	33.8	6.7	0	0	0	0	
4. 湾中央	10:38	0	28.6	33.5	7.8	0	0	0	0	
		2	27.2	33.7	7.7	0	0	0	0	
		5	26.4	33.8	6.7	0	0	0	0	
		10	25.5	33.7	6.0	0	0	0	0	
		21.5	17.8	34.2	0.0	0	0	0	0	
5. 洲の本	9:48	0	18.6	32.9	8.3	0	0	0	0	
		4	18.2	34.0	8.3	0	0	0	0	
6. 畑野浦	9:39	0	28.5	33.1	7.8	0	0	0	0	
		5	26.4	33.8	6.7	0	0	0	0	
7. 尾浦	10:53	0	27.9	33.5	7.4	0	0	0	0	
		5	25.9	33.8	7.0	0	0	0	0	
8. 西野浦(自動昇降機前)	10:10	0	29.0	33.4	7.6	0	0	0	0	
		5	26.4	33.8	6.6	0	0	0	0	210

※0mの水温・塩分・DOはクロロテックの0.5mの測定データによる

参考:赤潮注意・警戒密度(単位:細胞数/ml)

赤潮プランクトン	注意密度	警戒密度
シャットネラspp.	10以上	100以上
ヘテロシグマ・アカシオ	5000以上	50000以上
カレニア・ミキモトイ	200以上	2000以上
コクロディニウム・ホリクリコイデス	30以上	300以上

*警戒密度は漁業被害が想定される密度です。

*アワビ、サザエ等ではカレニア・ミキモトイで100~200細胞/mlで斃死する可能性があります。

*マグロに関しては、赤潮注意・警戒密度に1/10を乗じた細胞密度とする。



自動昇降機QRコード

URL: <http://hydro.browse.jp/hydrolift/25-Oitaminami/oitaminamitop.html>

連絡事項

有害プランクトンは確認されませんでした。

また、西野浦の浪井義三氏筏前、自動昇降機前地点の中層で、ケラチウム属が高密度(最大300 cells/mL)で確認されました。

今後の細胞密度の推移にご注意ください。

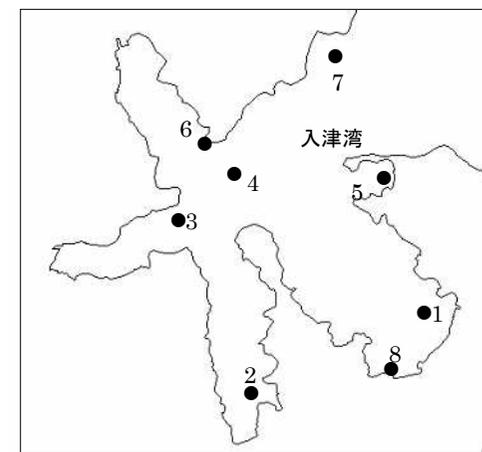


図 赤潮調査点